

2015年11月16日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086
神戸市中央区磯上通 7-1-5
www.lilly.co.jp

EL15-62

一般生活者を対象とした大人の ADHD(注意欠如・多動症)に関する認知度調査

『ADHD』の認知度 54.8% 理解浸透の必要性が浮き彫りに ADHDという言葉を知っている方でも、 約9割が大人の『ADHD』への適切な対応を「知らない」

—2016年4月施行「障害者差別解消法」が自分の生活に「関係ある」と思う方は約3割—

日本イーライリリー株式会社(本社:神戸市、社長:パトリック・ジョンソン)は、大人の注意欠如・多動症(以下、ADHD)を取り巻く環境の現状・課題を明らかにすることを目的に、20代~60代の男女400名(発達障害と診断されたことがある方を除く)を対象に、2015年10月、インターネット調査を実施いたしました(監修:東京都立小児総合医療センター 顧問 市川 宏伸 先生、NPO法人発達障害をもつ大人の会 代表 広野 ゆい 氏)。

ADHDは、不注意、多動性、衝動性を特徴とする症状がみられる発達障害の一つです。近年、成人のADHD当事者の存在と日常生活における困難に注目が集まっているなか、障害の有無に関わらず、個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指し、「障害者差別解消法」(※)が2016年4月に施行されます。これにより、日常生活に困難を感じている当事者への社会的サポートの更なる推進が期待されるものの、今回の調査ではADHDの認知度は5割強にとどまり、まずはADHD自体の認知を高めることの必要性が浮き彫りとなりました。

ADHDなどの発達障害や精神障害など、外見ではわかりづらい「目に見えない障害」への社会の配慮は「不十分だ」と思うとの回答が約8割を占め、また、ADHDという言葉を知っている方でも、大人のADHD当事者への適切な対応を「知らない」と回答した方が約9割に上りました。一方で約7割の方が、ADHDを抱える方を周囲がサポートするために「疾患についての理解を深めること」が必要だと回答しており、社会的基盤の充実とともに、ADHDなどの外見からはわかりづらい困難を抱える人に対しての、周囲の方によるサポートの重要性の啓発や、適切な対応の理解浸透の必要性が示唆されました。

※「障害者差別解消法」…障害を理由とする差別の解消を推進することにより、すべての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指し定められた法律。2016年4月施行。

主な調査結果は以下の通りです。

■ADHDの認知度は5割強、約9割がADHDに対する適切な対応を知らないと回答

ADHD(注意欠如・多動症)という言葉を知っている方は54.8%【P3、グラフ①】で、ADHDという言葉を知っている方の中でも32.4%が大人になってからADHDであることに気付く方もいることを「知らない」【P4、グラフ②】、57.5%が大人のADHDについて「理解していない」【P4、グラフ③】、また、89.5%がADHDと診断された方(成人)への適切な対応を知らないと回答しました【P5、グラフ④】。

■大人のADHDを抱える方が困っていると思うことは、「外見上は障害があることがわかりにくい」77.2%

ADHDという言葉を知っていると回答した方の中で、大人のADHDの症状として認識が最も低いのは「衝動買いをしてしまう」23.7%【P5、グラフ⑤】でした。また、大人のADHDを抱える方が困っていると思うことは、「外見上は障害があることがわかりにくい」77.2%【P6、グラフ⑥】でした。

■8割以上が、ADHDなどの外見ではわからない「目に見えない障害」への社会の配慮は「不十分」と回答

外見ではわからない「目に見えない障害」への社会の配慮は「不十分だと思う」「どちらかといえば不十分だと思う」と回答した方は計83.7%【P6、グラフ⑦】でした。ADHDを抱える方を、周囲がサポートするために必要だと思うこととして最も多かったのは「疾患についての理解を深めること」73.8%【P7、グラフ⑧】でした。

■「障害者差別解消法」が自分の生活に関係があると思っている人は約3割

2016年4月に施行される障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律「障害者差別解消法」に対しては、自分の生活に関係があると思うと回答した方は31.6%【P7、グラフ⑨】でした。

■東京都立小児総合医療センター 顧問 市川 宏伸 先生 コメント

調査結果では、半数近い方が ADHD という言葉を知らず、ADHD に対する正しい理解の普及とともに、その存在そのものを広く知ってもらうことも重要だと改めて認識しました。また、「大人になってから自分が ADHD であることに気付く方もいること」を「知らない」と回答された方がいました。実際には子どもの頃に見過ごされ、大人になって社会に出てから会社などでのミスが多発することで症状が顕在化し、結果的に 2 次障害(うつ病や不安障害等)を患い来院されるというケースが少なくありません。ADHD に気付かないまま、仕事や人間関係に悩み続けている当事者がよりよく生きてゆくために、一般の方々も ADHD に対する理解を深めていただくことを期待しています。

■NPO 法人 発達障害をもつ大人の会 代表 広野 ゆい 氏 コメント

今回の調査で、ADHD という言葉を知っている方でも、約 9 割が大人の ADHD 当事者に対する適切な対応を「知らない」ことが明らかになりました。ADHD は、外見からは分かりにくいので、仕事や日常生活に困難をきたしていることに気付かれにくく、本人は困っていても必要なサポートが得られないことがあります。2016 年 4 月に施行される「障害者差別解消法」をはじめ法整備もなされてきているものの、今回の調査からも関心は依然として高いとは言えず、周囲の方々の理解なくして、現状を変えることはできないと思っています。ひとりひとりの特性に合った対応やサポートが得られる機会が増え、ADHD 当事者が自分からも積極的に情報を発信できるような、それぞれの個性が輝ける社会の実現を、切に願っています。

大人の ADHD について

小児期に ADHD と診断された患者のうち約 50～70%は成人期(18 歳以降)にまで症状が持続することが示唆されています*¹。成人 ADHD の有病率は世界全体では平均 3.4%*²と報告されており、日本国内の調査における有病率の推定値は 1.65%でした*³。ADHD と診断される成人では、気分障害、不安障害、強迫性障害、解離性障害、物質性障害など多岐にわたる障害が重なること*⁴、また、落第、失業、転職、離婚などがみられるという報告もあります*⁵。成人期 ADHD の治療は、患者との面接や、家庭・職場との連携、薬物療法など総合的なプログラムが重要とされています。詳しくは <http://www.ADHD.co.jp> をご参照下さい。

*¹ Civic Research Institute: 4-1- 4-12, 2002, *² Br J Psychiatry 190:402-409,2007, *³ 精神科治療学 28(2):155-162,2013,

*⁴ 精神科治療学 19(4):415-424,2004, *⁵ 精神科治療学 19(5) : 563-569,2004.

ADHD に関する情報サイト「大人のための ADHD.co.jp」

(<http://adhd.co.jp/otona/>)

Web サイトにて、成人期の ADHD を理解し、正しく対処していただける情報をご紹介します。また、成人期 ADHD 当事者の日常生活における困難や悩みを漫画にて表現した疾患啓発冊子『ブラックジャックによろしく 大人の ADHD 編』を Web サイトにて閲覧、または PDF をダウンロードしていただけます。



Web サイト
「大人のための ADHD.co.jp」



『ブラックジャックによろしく
大人の ADHD 編』

日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、本年設立 40 周年を迎えます。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じて日本の医療に貢献しています。統合失調症、うつ、双極性障害、注意欠如・多動症(AD/HD)、がん(非小細胞肺癌、膵がん、胆道がん、悪性胸膜中皮腫、尿路上皮がん、乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫、胃がん)、糖尿病、成長障害、骨粗鬆症などの治療薬を提供しています。また、アルツハイマー型認知症、関節リウマチ、乾癬などの診断薬・治療薬の開発を行っています。詳細はホームページをご覧ください。<http://www.lilly.co.jp>

今回の調査の主な結果は次頁の通りです。詳細なデータを弊社の[ウェブサイト](#)に掲載しております。

大人のADHDに関する認知度調査 概要

目的：大人のADHDを取り巻く環境の現状・課題を明らかにする

調査主体：日本イーライリリー株式会社

監修：東京都立小児総合医療センター 顧問 市川 宏伸 先生

NPO法人発達障害をもつ大人の会 代表 広野 ゆい 氏

調査地域：全国

調査方法：インターネット調査(マクロミルモニタを利用)

調査対象：20代～60代の男女 400名
(発達障害と診断されたことがある方を除く)

調査期間：2015年10月7日～2015年10月8日

※調査結果は小数点以下第2位を四捨五入しました。

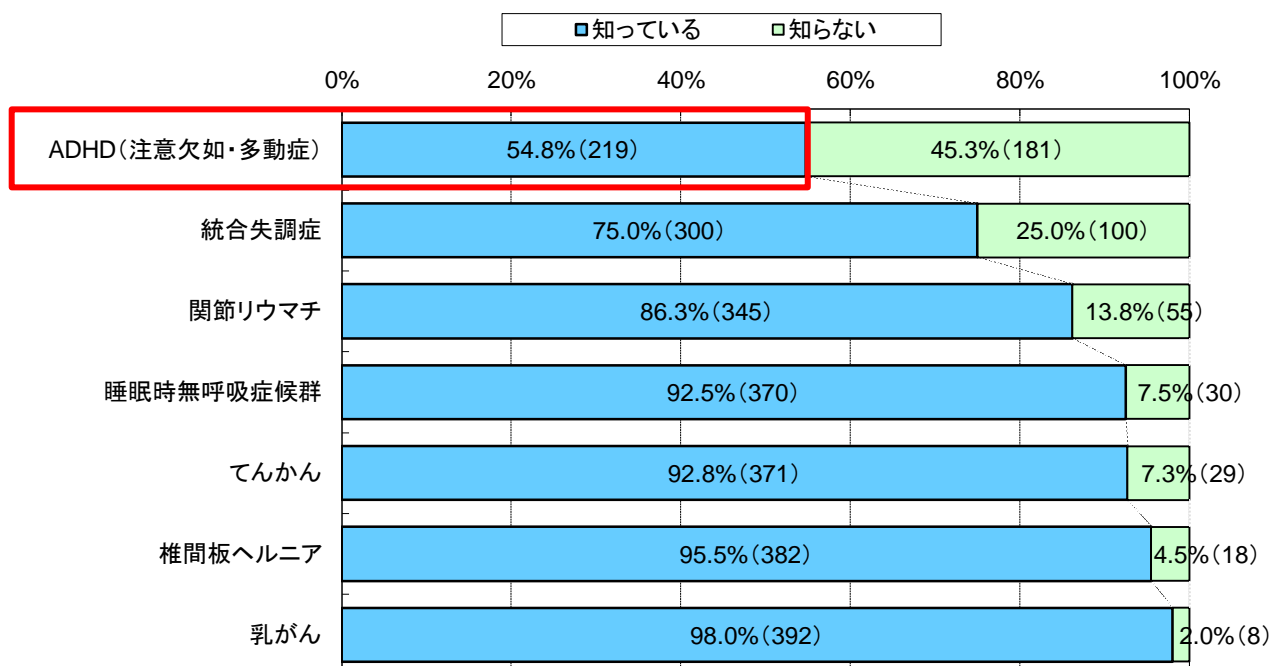
調査結果

グラフ① ADHD(注意欠如・多動症)という言葉を知っている方は、54.8%

下記の言葉を知っていますかと尋ねたところ、「ADHD(注意欠如・多動症)」を知っていると回答した方は54.8%でした。

Q. 下記の言葉を知っていますか。

疾患名の認知度(単一回答) (n=400)

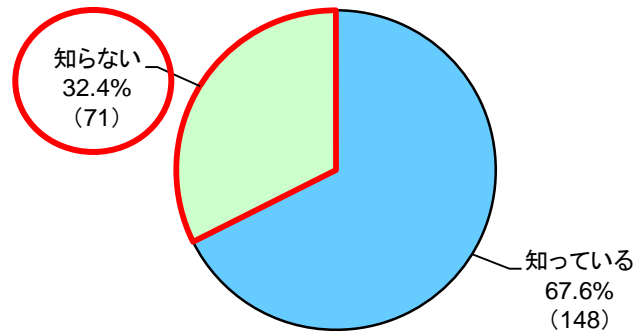


グラフ② 32.4%が大人になってから ADHD であることに気付く方もいることを「知らない」と回答

ADHDという言葉を知っていると回答した方のうち、大人になってから自分が ADHD であることに気付く方もいることを「知らない」と回答した方は 32.4%でした。

Q. 大人になってから自分が ADHD(注意欠如・多動症)であることに気付く方もいることを知っていますか。

大人になってから ADHD であることに気付く方もいることの認知 (単一回答)
(n=219: ADHD という言葉を知っていると回答した方)

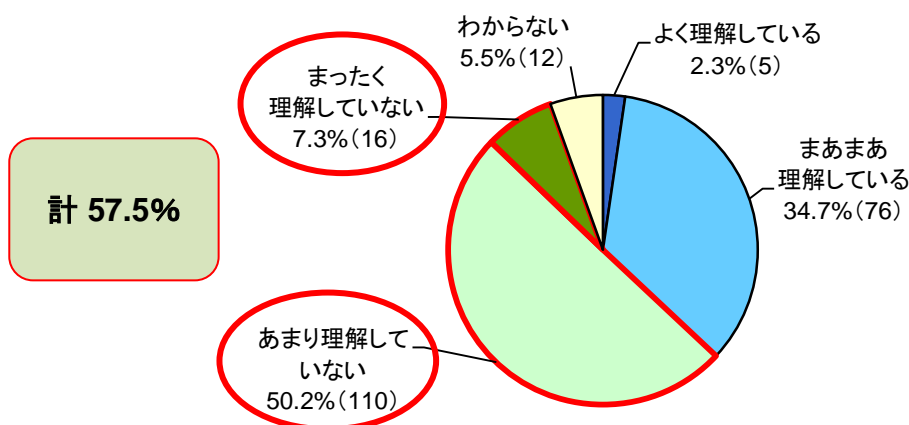


グラフ③ 大人の ADHD について「理解していない」と回答した方は 57.5%

ADHD という言葉を知っていると回答した方に対して、大人の ADHD がどのような疾患であるか理解しているかを尋ねたところ、「あまり理解していない」「まったく理解していない」と回答した方は計 57.5%でした。

Q. 大人の ADHD(注意欠如・多動症)がどのような疾患であるか理解していますか。

大人の ADHD についての理解度 (単一回答)
(n=219: ADHD という言葉を知っていると回答した方)

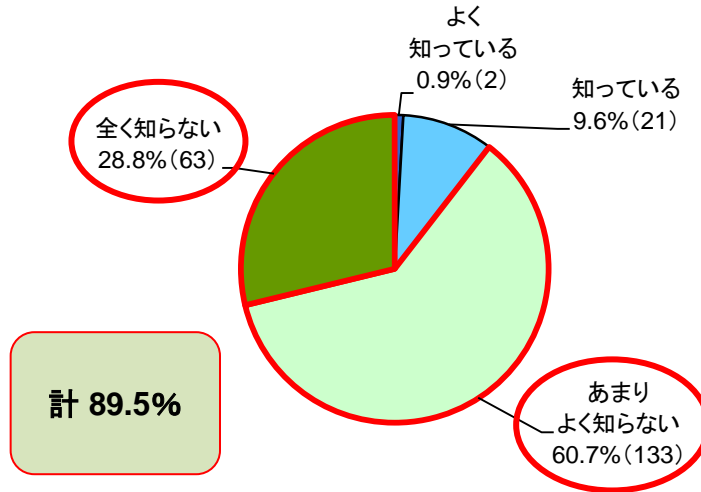


グラフ④ 89.5%が ADHD と診断された方(成人)への適切な対応を「知らない」と回答

ADHD という言葉を知っていると回答した方に対して、ADHD と診断された方(成人)への適切な対応を知っているかを尋ねたところ、「あまりよく知らない」「全く知らない」と回答した方が計 89.5%でした。

Q. ADHD(注意欠如・多動症)と診断された方(成人)への適切な対応を知っていますか。

大人の ADHD に対する適切な対応 (単一回答)
(n=219: ADHD という言葉を知っていると回答した方)

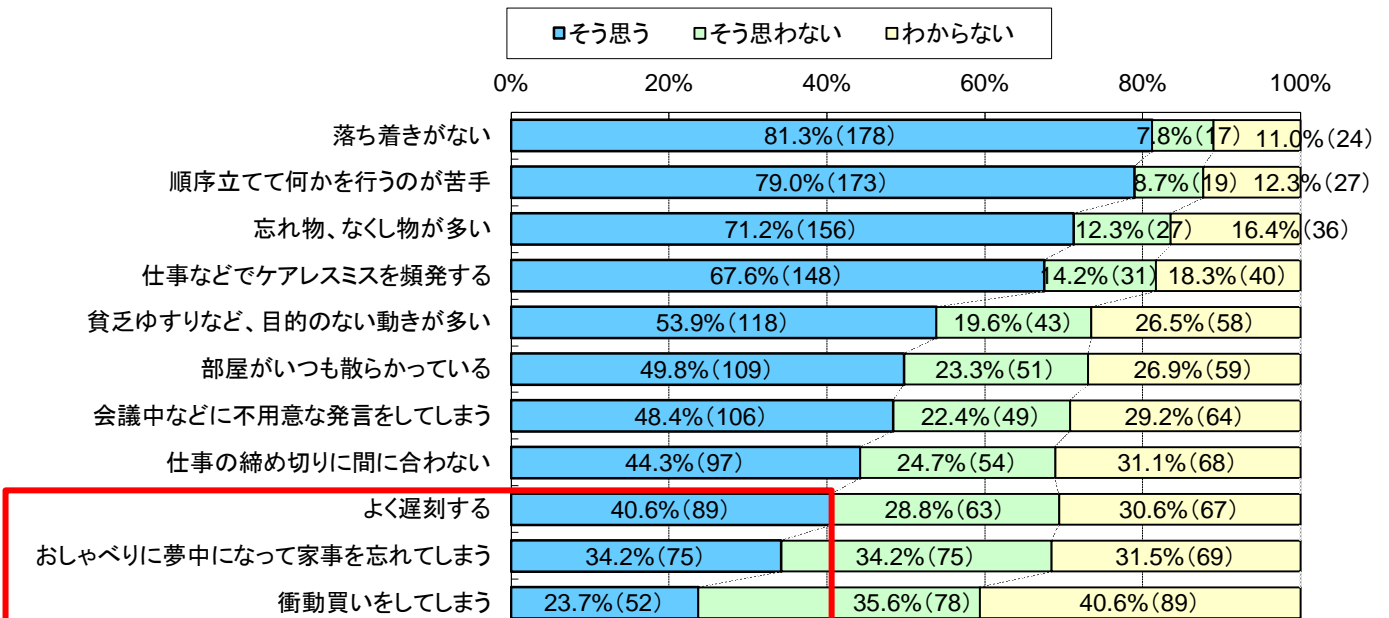


グラフ⑤ 大人の ADHD の症状として認知が低かったのは「衝動買いをしてしまう」23.7%

ADHD という言葉を知っていると回答した方に対して、大人の ADHD を抱える方が持っていると思う症状を尋ねたところ、認知が低かった症状は、ADHD の特徴とされる衝動性による症状である「衝動買いをしてしまう」23.7%、多動性による症状である「おしゃべりに夢中になって家事を忘れてしまう」34.2%、不注意による症状である「よく遅刻する」40.6%でした。

Q. 大人の ADHD(注意欠如・多動症)を抱える方は、どのような症状を持っていると思いますか。

大人の ADHD を抱える方が持っていると思う症状 (単一回答)
(n=219: ADHD という言葉を知っていると回答した方)



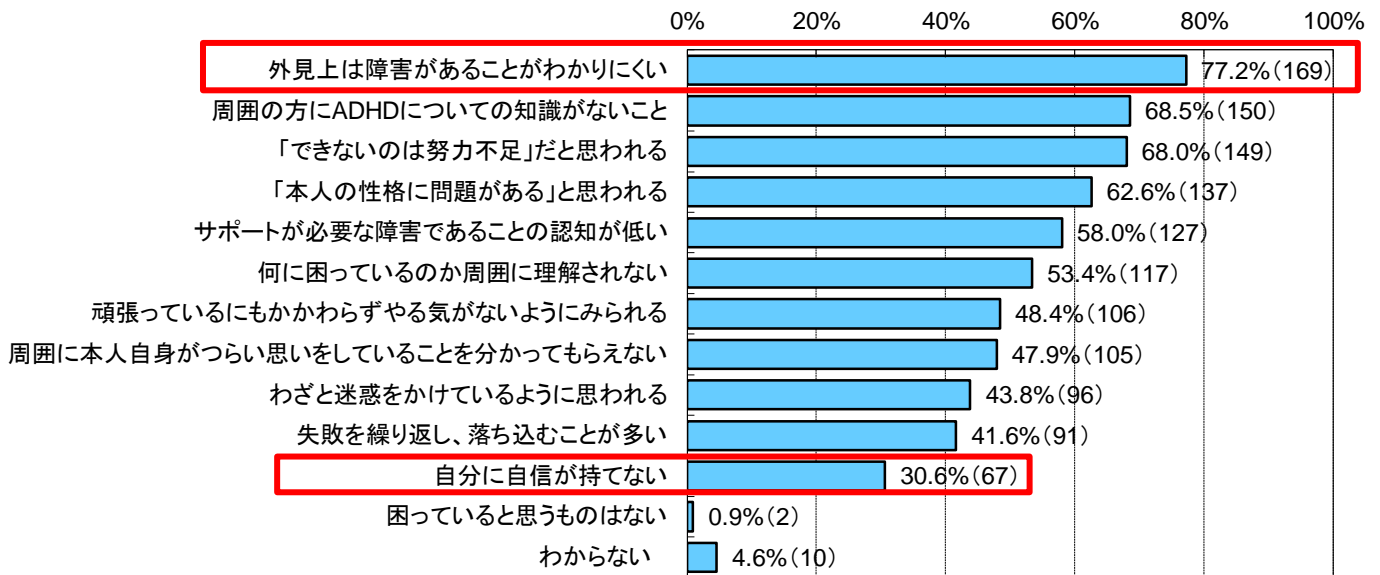
グラフ⑥ 大人の ADHDを抱える方が困っていると思うことは、「外見上は障害があることがわかりにくい」77.2%

ADHDという言葉を知っていると回答した方に対して、大人の ADHDを抱える方がどのようなことに困っていると思うかを尋ねたところ、「外見上は障害があることがわかりにくい」が最も多く 77.2%でした。一方、困っていることとして認知が低かったのは「自分に自信が持てない」は 30.6%でした。

Q. 下記の内容について、大人の ADHD(注意欠如・多動症)を抱える方は、どのようなことに困っていると思いますか。

大人の ADHDを抱える方が困っていると思うこと (複数回答)

(n=219: ADHD という言葉を知っていると回答した方)

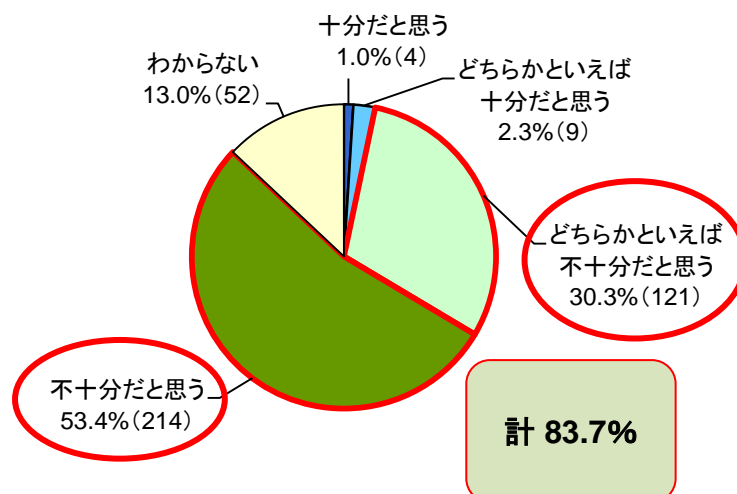


グラフ⑦ 83.7%が、外見ではわからない「目に見えない障害」への社会の配慮は不十分だと思うと回答

ADHD(注意欠如・多動症)などの発達障害や精神障害など、外見ではわからない「目に見えない障害」への社会の配慮は十分だと思うかと尋ねたところ、「どちらかといえば不十分だと思う」「不十分だと思う」と回答した方は計 83.7%でした。

Q. ADHD(注意欠如・多動症)などの発達障害や精神障害など、外見ではわからない「目に見えない障害」への社会の配慮は十分だと思いますか。

「目に見えない障害」への社会の配慮 (単一回答) (n=400)

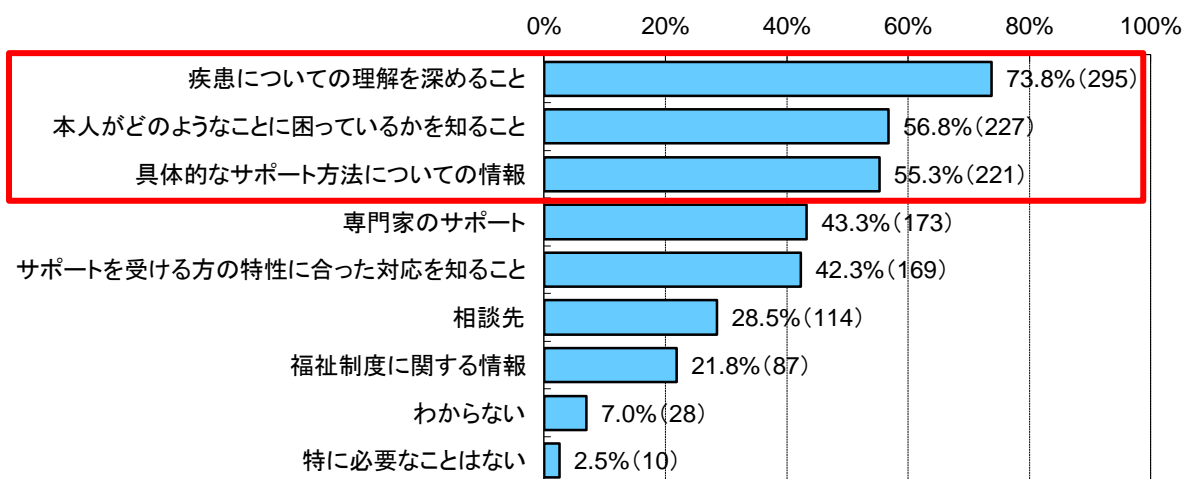


グラフ⑧ ADHDを抱える方を、周囲がサポートするために必要だと思うこととして最も多かったのは「疾患についての理解を深めること」73.8%

目に見えない障害であるADHDを抱える方を、周囲の方がサポートするためにどのようなことが必要だと思うかを尋ねたところ、「疾患についての理解を深めること」が73.8%と最も多く、続いて「本人がどのようなことに困っているかを知ること」56.8%、「具体的なサポート方法についての情報」55.3%でした。

Q. 目に見えない障害であるADHD(注意欠如・多動症)を抱える方を、周囲の方がサポートするためにどのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも)

周囲がサポートするために必要なこと（複数回答） (n=400)



グラフ⑨ 「障害者差別解消法」が自分の生活に関係があると思うと回答した方は31.6%

「障害者差別解消法」は自分の生活にどの程度関係があると思うかと尋ねたところ、「非常に関係がある」「やや関係がある」と回答した方は計31.6%でした。

Q. 2016年4月に施行される「障害者差別解消法」は、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律です。「障害者差別解消法」はあなたの生活にどの程度関係があると思いますか。

「障害者差別解消法」との関わり（単一回答） (n=400)

